



週報

D2630

Weekly Report, Gujyo nagaragawa Rotary Club

郡上長良川ロータリークラブ

第47期クラブテーマ

地域社会と共に！ ～輝け オンリーワン～

第47期 2024.7 ~ 2025.6

会長：山下 誠

副会長：羽土 洋司

幹事：石徹白秀也



11月 紅葉

例会日：毎週水曜日 18:30 (6月～9月末 19:00)

例会場及び事務所：白鳥町農業指導センター 2F

TEL : 0575-82-3822 FAX : 0575-82-5191

E-mail:gsc@abelia.ocn.ne.jp 発行：クラブ会報委員会

第2174回

令和6年11月6日（水）

本日の行事

郡上北高生との懇談会・座談会

2024～25 年度

山下 誠会長

本日のお客様

郡上北高等学校生徒の皆様

幹事報告

石徹白秀也幹事

* 11月レート 1 \$153 円

* 地区事務所より

・職業奉仕研修セミナーのお知らせ

11月30日（土）名鉄グランドホテル

* 地区補助金募集案内 補助金申請 1月31日

* ガバナー事務所より

・バギオ訪問交流の旅の案内

・カルガリー国際大会の案内

・メジャードナー晩餐会の案内

・ガバナー杯ゴルフ大会日程変更のお知らせ

・大阪万博開幕券入場日確定の案内

* 美濃 RC より 親睦ゴルフ大会収支報告

* 例会変更 加賀中央、関中央 RC

第2173例会報告

■会長挨拶

2024~25 年度 山下誠会長

皆さん、高鷲例会に大勢参加していただき、ありがとうございます。

蓑島さん、本日は卓話よろしくお願ひ致します。またセッティングしていただいた麦島君、奥村君ありがとうございます。

一週間のうちに会長の挨拶を色々考えていますが、ここに立つと真っ白になってしまいます。先週は山口さん、お疲れ様でした。杉山君も私と一緒に参加しましたが、財団研修セミナーが四日市であり、参加して参りました。私には大変分かり易く、進め方が良かったです。

杉山財団委員長から後日報告していただきます。

今期は地区補助金の為のプロジェクトチームを作っておりますが、その為には財源が必要です。肝心なのは次代を担う若い人達に、白鳥踊りをはじめとする文化を伝えていく礎を我々は今の段階でやっていくのだという気持ちを持って進めることが大切だと思います。

またポリオ根絶ミーティングが午後からあり、このミーティングは突然変えたという事でした。ポリオに関しては世界ではガザ地区や、アフガニスタンとパキスタンの2国がまだ残っており、わずかでも残っているポリオを根絶するという事です。ガザ地区ではまだ子供たちがポリオの関係でワクチンを投与しても、あの状況の中で中々撲滅は出来ない。一度広がると爆発的に広がるという事でした。ロータリーの一番の求めているのはポリオ撲滅という事で、皆さんよろしくお願ひします。もう一つ言われたのは、ビル・ゲイツ氏は知っていると思いますが、多額の寄付をされていて、彼に負けたら彼のお手柄になってしまうという話をされ、それがどうしたのかと思いましたが、ロータリーの意地もあるので寄付をしてほしいという事でした。

白鳥町は踊り、大和町は歴史と文化、白鳥町は2026年に越前との高速が繋がると文化の交差点が集中し、すごい所になっていきます。高鷲町は西日本最大のスキー場もあります。今すでに雪を作っています。この3町ですごい産業がありますのでロータリーでも何かできればと思います。今夜の高鷲例会、よろしくお願ひ致します。

■高鷲例会「あそび×文化×暮らし 高鷲の滞在を豊かにする情報発信 メディア」

たかすのす代表 蓑島俊輔様

一般社会法人たかすのす代表を務めさせていただきます蓑島俊輔です。本日は大変貴重な時間をいただき、ありがとうございます。

最初に自己紹介をさせていただきます。生まれは高鷲町で民宿 小左



エ門の体です。大学卒業後、アパレル会社に勤務の後、バックパッカー。ワーキングホリデーを経て高鷲町にリターンし、家業を手伝いながら 2019 年から活動をしています。

僕たちのビジョンはまた帰ってきたくなる「巣」のような場所づくりです。郡上には大学がありませんので高校卒業すると一回出でています。その人たちがまた帰ってきたくなる場所づくりを行っています。メンバーは高鷲の若者と郡上各地の若者で構成されています。

内容としては「遊び×文化×暮らし」の掛け合わせから生まれる地域の魅力を発信し、「遊ぶ、食べる、泊まる」の連携をみんなで叶えられるよう活動しています。得意な領域として、情報発信や、広告宣伝、市場調査とデータ分析、デジタルマーケティングと、得意な人材が揃っています。

本日は高鷲の会場ですので少し紹介します。人口は約 2900 人で、世帯数は 1130 世帯あります。3000 人というと、東京のスクランブル交差点の一回の通行量が 3000 人と言われ、高鷲の人口は交差点の 1 回の交通量と同じになります。

年間観光客は郡上市内で 540 万人来ており、高鷲町は約 160 万人で郡上市全体の 30%に当たります。ちなみに 500 万人は北海道の人口くらいです。年間宿泊数は約 20 万人で市内全体の半分以上になり、人口 3000 人の町ではないような数字です。

高鷲町が抱える課題で、少子高齢化、人口減少、担い手の不足、繁忙期以外の集客といったものが課題として挙げられ、課題に対するアプローチとして、情報の発信、空き家対策、移住定住促進、人材育成に取り組んでいます。

今、具体的に取り組んでいる事について紹介します。今年に関して言うと、7 つの領域で活動しています。その中で LINE 広報「ほーかな！たかす」、若者の会議、やま森マルシェについて説明します。一つ目は高鷲地域協議会 LINE 公式アカウント「ほーかな！たかす広報」というものです。公式アカウントは LINE が提供しているサービスになり、企業や店舗が顧客に対して情報を発信するビジネス用のアカウントになります。LINE の普及率が全国で約 9700 万人が使われており、日本の人口の約 78%になり、生活のインフラとしても定着しています。そして約 80%がその日のうちに開封されています。それをどのように活用しているかというと、高鷲町の広報として活用しています。高鷲にまつわる様々な新鮮な情報として配信しています。これは高鷲に関係する内容なら配信可能です。今同席している渡邊慎君もメンバーに入っており、彼は地域おこし実践隊として最初の仕事でした。もともと高鷲に広報はあったのですが、これを別の形で発信できないかといった発起人は彼で、それを広げていったという形です。地元のお母さんや地域おこし隊などのメンバー 6 人で配信しています。

何を配信しているかと言いますと、公共・福祉関係や、地域の飲食店、企業や任意団体の情報です。配信の目的は高鷲の人々が、日常の中で高鷲の情報に触れて、当たり前に知ることが出来る環境を作る事です。高鷲の事を高鷲の人が当たり前に知っている情報を作りたいと思っています。配信の方法は文章と写真、もしくは映像の 3 つのセットで配信して、毎日 1~3 つ配信しています。ぐーにーさんというお店はランチメニューを毎月配信しています。また盆踊りなど地域の情報も配信しています。ラインを見て行ったよ、とか買物に行ったという声をいただきます。現在の登録者数は 1120 人で、ほとんどの世帯が数字上登録してくれています。また開封率も 70% 以上で 10~80 代と幅広く登録していただいている。当初は 1 世帯に 1 人の登録を目標にして 3 年目で達成しています。

実際に事業者の声としては、お惣菜の告知やマルシェの告知に活用していただいて、LINE を活用してからお客様が増えたとか、SNS が使えないでも配信出来るとか、登録者は今日はどんなお惣菜があるか分かるとか、学校の行事や地域の行事が分かるから便利といった声が寄せられています。またホームページで情報を掲載し、それを LINE 広報で配信することもあります。

もたらされた効果は、高鷲の人が誰でも高鷲の情報を当たり前に知ることが出来る、紙だと月一回が限度ですが、データならより多くの情報を配信できるという事で、思った以上に皆様にお伝えできていると思います。地域の情報を効率よく収集し、多くの情報を少ないコストで届けることが出来、お店の売上もアップしたという声も聞きます。徐々に見えてきた効果として、地域内の情報が回ることによって人が動き、地元のイベントに地元の人が訪れる事によって活気がもたらされ、町の血行が良くなり、色々な事が回りやすくなっているなど感じているところです。今年で 3 年を迎えてこれからも継続してみたいと思います。

やま森マルシェについてお話をしたいと思います。これは高鷲の若者が主体となって企画しているマルシェです。出店者は主に高鷲の事業者や若い人達がメインとなっています。春に行ったマルシェでは看板も手作りし、出店のお誘いやレイアウトもすべて地元の若者で行っています。企画は僕以外 20 代です。高鷲の若者が多く、地元の事が非常に好きで、どういう風に盛り上げよう、ど



ういう形にもっていこうと考えながら盛り上がっています。

数字で見てみると来場者数が、第1回目、昨年の秋は約800人、2回目今年の春は約1400人、3回目今年の夏は雨が降りましたが約1100人来ていただきました。

来月に4回目を高鷲スノーパークで開催します。今回はキャンプをテーマに交えて、地元の出展者さんと交流しつつキャンプが出来る企画をしています。また9日には美並の地域団体「みなみ風」さんと協力してマルシェと一緒に開催します。若者が始めた企画がどんどん広がって地域を超えて交流が見いだされようという状況になっています。

郡上みらい応援団という、郡上市の若者を中心としたワークショップを行っています。これは郡上市長が7月初めに若者を集めて、何が必要かワークショップを開いて意見を集約してほしいという声を掛けてもらったのがきっかけです。内容としては若者をUターンで呼び戻せるかを施策として考えてくれという命令をいただきました。

Uターン施策とは分かり易くいえば、20~39歳の女性を寄せる事、つまり出産出来る人が地元にどれだけいるか、Uターン施策に一番有効な手だと言われています。

消滅可能性自治体という言葉を聞いたことがあるかと思います。2025~2050年の25年にかけて女性20~39歳の女性が半分になってしまう、今後消滅が高い自治体だと言われております。一番効果的なUターン施策は、どれだけ地元に女性を寄せることが出来るかという事になります。その中で効果的にできるのは、お金がある所、税金があるところ、人が多く力がある所に流れてしまいます。同じことをしても人は流れてこないので、差別化をすることが分かってきました。

7か町村から代表を出していただき総勢25人で3回のワークショップを行いました、5つにグループ分けし、Uターンに良い施策を考えていこうというのが内容でした。資料は市長にプレゼンした時の資料ですが、少し見て頂こうと思います。

事業の目的は、ただ自分たちだけでやるだけじゃなく、郡上市役所の皆さんと新しいまちづくり連携の方法を見出し、「消滅可能性自治体」からの脱却を目的としたUターン施策について、次年度以降、どうアクションしていくか考えていくような提案をさせていただきました。Uターン施策について何が一番良いかというと、みんなが当たり前に交流をして、自分たちの意見が健全に交じりあっている状態が実は一つの答えだと行きつきました。アイデアとはすべての色々な所に存在している、それが常に人の目に触れている物がほとんどだと思います。ただ今迄みたいに差別化し新しいアイデアを出そうとすると、既存のアイデアを掛け合わせるしかない、そうなると交流の場があって、それが健全に意見交流でき、組み合わせる場所が一つの答えではないか、ショップを通じて思いました。ですから市内各地で多世代がさまざまな挑戦を連続的に行い、実践、交流が行われているのが一つの答えだと思っております。

では何をしていけばいいか、その第一歩として提案させていただいたのが「一緒にやりません課」です。具体的にはアイデアの見える化をし、それをコミュニティーを通じて交流をし、アイデアの実現に向けて、もしくは難しければ検討し直しして不現実に向けて結論を出す事をやろうと自分たちで提案しました。

具体的には場づくり、場の運営・情報収集、情報発信すること、この3つを来年から実践していきますと話しました。

僕たちに求められているのは、柔軟なアイデアを出す事ですか、若者ですので手足を動かして働くこと、現代のSNSやAIは若者の方が強いので、それをどう掛け合わせて実行するか、若者の強み、僕らに求められているものだと思っています。「一緒にやりません課」の先に様々な未来があるかなと思います。

第3回目に行ったワークショップで出たアイデアは5つのグループで出ており、郡上学のような郡上アカデミーとか、コンパクト集落&拠点づくりなど出てきました。全て叶えていくと郡上が役割のある地域になっていくのではないかというのが見えてきています。

諸先輩方に相談すると、インパクトがないとか、先輩方がやられてきている背景があるので、そういうお言葉をいただくことがありました。それに対しては起爆型で企画をして盛り上がりていくのと、徐々に積み重ねをして少しずつ盛り上げてきたのが今まで作られて来た状況です。今は状況が変わってきて、なかなか難しい、何か一つやろうと思っても資金がないとか、そういう問題があるのでこういった進め方をしようかと思っています。仕込み期間を設けて一つの確変を迎えて、盛り上げたいと思い、進めていこうと思っています。仕込みの期間は若者たちに関わってくれる人を増やしたり、小さい事でもいいので連続的に若者がやりたいことを形にして実績を作っていく事をやっていこうと思います。すでに先輩方がやってきたこともあるのですが、そこも差別化しては変えてやっていこうと思います。

Uターン者は増えたほうが良いでしょうか？僕らもそうですが、増えたほうがいいよというのが一つの結論だと思います。盛り上がるためには人は増えたほうがいいですし、地域を盛り上げる為

にも、人口減少対策をすべきだと思います。ただ実際に何をした方がいいか聞くと、皆さんそれぞれの意見がでてきます。こういう面が影響してくると思います。税収や山林などの保全、医療・教育のサービスなど、人が足りなくなると手が回らなくなるので、人を増やさなければならぬ。人が戻ってくるには必要な条件という事でアンケートを取りました。見てみるとどれ一つ突出していませんので、色々な対策をしていかなくてはいけないことが分かりました。僕たちが出したのは色々な策でした。みんな思っていることが違うので、理想は少しずつやっていこうと思っていても、実際何をしていったらよいか分からぬ。おそらく正解がなくて、それぞれ小さい事を積み上げれば結局増えしていくのではないかと思っています。Uターン者数を増やすために、Uターンの策を取りますというのはちょっと違うのではないかと思っています。いろんなアクションを起こしていくのがリターンに繋がっていくんではないかと思っています。

消滅可能性自治体とは何かを調べ物をしたり、人口減少のピラミッド等の背景の数字をしっかり調べまして、結果的にやっていきたいのは郡上にUターンしてくれますか、と聞いた時に日本には魅力的な街が沢山ありますので、その中で郡上を選んでもらわないといけないです。郡上を選択に入れてもらうために、自分たちが豊かさを実践し続けるアイデアを出し続けるという答えがでました。様々なアクションに対して郡上らしさ、郡上の中で出来ることをかき合わせてやって行く必要があると思っています。

今のメンバーは私含め3人、更にコアメンバーとして5人、ワークショップメンバーで25人、それぞれ仕事がある中、昼の1時から3時まで毎週90%が参加して郡上の未来について議論しています。結果としてやってみたいことは「一緒にやりません課」に落ち着きました。

せっかくこのような場を設けていただきましたので、僕から皆さんにお伝えしたいことがあります、見て頂いた活動は20~30代が中心になってやっています。高齢は20代の若者が多いと言われています。郡上全体でみると人口は減っていますが、活動の場が非常に増えている気がします。僕らは進め方が分からないことが多いです。誰に相談したらよいか、これをやることが本当に正しいかどうか分からないことが多いです。且つ中々みんなに聞けない、最近の子たちは自分を表現することが難しい、苦手の子が多いので言葉にすることが難しいですが、こうして活動できるのは麦島さんはじめ、高齢の先輩方が背中を押して頂いたおかげです。高齢でもそうですが、郡上全体でも若者を含めて活動が展開されていると思いますが、そこに対して皆様のご理解とご協力をいただければ幸いです。人口減少に関しては郡上市も他人ごとではなく2050年には21000人になると言われています。これは郡上全体で取り組んでいかなければいけませんので、皆様に背中を押していただければ幸いです。以上で終わりたいと思います、本日はありがとうございました。

■ニコBOX

ニコBOX委員会 大村太郎君

山下誠君 高齢例会が開催されます事に感謝致します。又、一般社会法人たかすのす代表 萩島俊輔様、よろしくお願ひ致します。

麦島洋介君 ようこそ高齢へ。高齢の郡上の若者の代表として、今後期待している「たかすのす」代表 萩島君、本日はありがとうございました。

大村太郎君 高齢例会楽しみです。高齢会員の方、企画ありがとうございます。大和ドブロク祭に行きました。

寺田澄男君 高齢からのメンバーの皆様、準備ありがとうございます。例会出席のご苦労、少し理解出来ました。

美谷添生君 昨日、京都の時代祭を見てきました。この祭は京都の三大祭りと言われており、明治維新から平安時代までをさかのぼり、その時代の衣装に扮した人物が練り歩く総勢2000人余りの大イベントでした。京都の活気を感じました。

美谷添里恵子君 一年振りの高齢例会です。担当の皆様ありがとうございます。日・月と福井、石川方面へ会社の研修旅行へ行きました。良い天気に恵まれ、久しぶりのバスの旅を楽しんできました。

松森正和君 友人が資格試験に合格しました。おめでとう。

山口里美君 明日は世界ポリオデーです。ポリオワクチンを見つけた医師の誕生日だそうです。

和田智博君 萩島様、本日は卓話よろしくお願ひします。

(同文) 藤代昇君、和田良一君、羽土洋司君、畠中知昭君、佐藤備子君、遠藤正史君、鷺見啓兒君、奥村照彦君、吉村泰彦君

■出席報告

出席委員会 鷺見啓兒君

■次週行事予定

11月13日 地区補助金事業・IM報告

11月20日 加賀中央RCとの交換卓話

11月28日 郡上八幡RCとの合同例会

	会員数	出席者	欠席者	補正者	出席率
2172回	31名	24名	6名	1名	80.65%
2173回	31名	22名	8名	1名	74.19%